東京 鉄鋼商況 大阪

Ni系ステン冷薄

原料値動向を懸念

ニッケル系ステンレス冷延薄板は横ばい。原料価格のジリ安が継続しており、マーケットでは、様子見姿勢の流通が大半。値上げ途上にあっただけにある意味で正念場を迎えているといえそうだ。SUS304ベースサイズはトン315万5000円どころ。

荷動きは今一つの状況が続いている。10月も帳破明けだが9月とあまり変わらないとする流通はい。「秋需という概念が昔話のようだ」（大手扱い筋）とも。

一方で、メーカーは在庫評価益により、上期の業績は黒字を維持したもよう。ひも付きも堅調が続いており、収益面ではそこそこか。店売り向けでは、価格維持の姿勢を貫くと見られる。

懸念はニッケル価格の行方。大きく下落するようだと、値開れの可能性がある。足元ではボンド7㌦を割り込んでおり、「危険水域」とみる流通関係者も。

磨棒鋼

頭重い展開続く

磨棒鋼は方向感を欠く展開。市中価格は16㍉がトン当たり16万円、50㍉が16万5000円中心となっている。需給のギャップが埋まらない中、引き続き頭の重い展開を余儀なくされている。需要産業では主力の自動車が比較的堅調に推移している一方、建機、工作機械、一般機械関連などが盛り上がりを欠くなど材料不足の感が否めない。関係者からは「現状のままでは年内の値上げは難しいのでは」（問屋筋）との慎重な見方も出ている。

関東地区の荷動きは「おおむね悪くない」（流通）ものの、需給にタイト感は薄いのが実情。需要に変化が見られないため、需要家との積極的な交渉も行いづらい環境にある。昨年来、磨棒鋼メーカーが打ち出してきた製品価格引き上げの進捗は鈍く、足元でも素材の値上げが浸透しない中で製品も足踏みが続いている。

厚板

弱含み様子見

厚板は弱含み様子見状態となっている。定尺がトン当たり7万9000円（19㍉厚・5×10サイズ、無規格品）前後。

東京製鉄が20日、11月契約分の鋼材販売価格（店売り向け）を全品種トン3000円値下げすると発表した。全品種値下げするのは2012年7月契約以来、2年4カ月ぶり。10月契約分までは9カ月連続で販売価格を全品種据え置いてきたが、今回の東鉄の値下げを受けて「特に定尺品の荷動きが伸び悩んでいる中、厚板についてはメーカー値上げ分の積み残しもあったため、かなり厳しい状況になる」（流通筋）との見方もある。

切板市況（倉庫渡し、SS材）もトン9万―9万3000円前後で推移しているが、「母材価格の下落が直撃する可能性もある。採算確保へ向けて、正念場となる」（地区内シャー）との声も聞かれる。

普通鉄線

需要盛り上がり欠く

普通鉄線は弱含み。市中価格は規格線（4・0㍉―8番）トン当たり13万円中心。

地区問屋によると、需要は期待感が先行している割に盛り上がりに欠ける。荷動きの感触は8月の落ち込みが大きく、9月に多少回復したものの、10月前半は再び悪化と一進一退の様子。人手不足による建設工事の遅れ、関西地区の中小物件の動きが今ひとつなどの要因が重なっているようだ。

ただ、製品メーカーは線材価格が変わらず、価格重視の姿勢。流通も小口販売では採算確保を優先している。

市況展望

Market Conditions

東北・鉄スクラップ

輸出、東鉄安で弱含み

東北地区の鉄スクラップ市況は弱含み。問屋ヤード持ち込み価格はH2でトン1万5500円どころ。輸出マーケットが続落し、最大手の東京製鉄が買値を引き下げたことで、地場電炉も追随値下げした。これにより、市中価格も9月中旬と比べ4000円方（約12%）下落し、足元も下げ止まる気配が見られない。

指標となる東京湾岸の浜値は現在、FASでトン2万8000円どころ。米国玉の輸出価格が浜値は一段と下押し圧力を強めている。

これを受け、東鉄も断続的に買値を引き下げ、関東電炉の購入価格は3万円を割った。半年ぶりの安値で、地場電炉の買値も3万円際に接近してトルコ向け、アジア向けともに下落したほか、韓国電炉が買い控えている。また、安価な中国産ビレットが増えているほか、鉄鉱石価格も5年ぶりの安値を付けており、浜値は一段と下押し圧力を強めている。

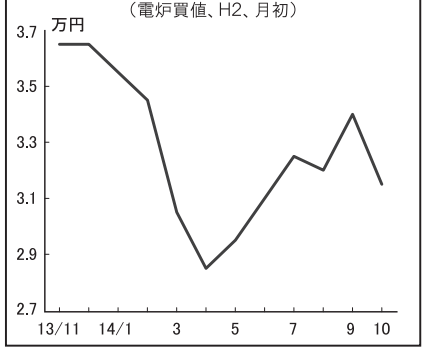
輸出価格がさらに下落した場合、歯止めがきかずに相場が崩れる公算が大きい。地場電炉は入荷状況を見ながら、慎重に対応する構えだ。

スクラップの発生自体が低調なので、古紙なども扱うヤード業者は「資源物は全般的に動きが悪い。スクラップは工場発生も低水準で、入札になると高値で関東業者が落札していく」と嘆く。ビッグディーラーが仕入れを強化する動きも散見され、地域密着型の業者が苦戦を強いられるケースが多い。

東鉄は20日、11月製品販価を全品種トン3000円引き下げた。アジアと比べ国内建材マーケットは堅調だっただけに、原料を扱うスクラップ業者にも先安観が強まっている。今後の輸出マーケ不透明感が漂っている。

東北地区の鉄スクラップ価格推移

（電炉買値、H2、月初）



鉄鋼・非鉄・需要業界の株価 22日

	終値	前日比
東証1部		
新日鉄住金	256	4.5
JFE	1954	33
神戸製鋼所	160	1
日新製鋼	918	22
POSCO		
中山製鋼所	75	0
合同製鉄	147	4
東京製鉄	525	14
共英製鋼	1734	21
大和工業	3360	135
東京鉄鋼	483	10
大阪製鉄	1842	6
トピー工業	195	3
大同特殊鋼	403	12
日立金属	1875	36
愛知製鋼	373	8
山陽特殊製鋼	352	8
三菱製鋼	218	5
日本高周波	101	2
日本冶金工業	246	8
日本金属	143	5
淀川製鋼所	398	9
東洋鋼鈑	535	21
洋カンHD	1169	42
ホッカンHD	267	6
丸一鋼管	2493	61
モリ工業	409	4
新家工業	167	4
大平洋金属	342	13
新日本電工	258	11
日本製鋼所	370	13
栗本鉄工所	215	3
虹技	227	6
日本鋳鉄管	228	3
日亜鋼業	313	▼1
日本精線	706	6
シンニッタン	564	13
宮地エンジG	197	9
川田TECH	4860	225
横河ブHD	1420	63
OSJBHD	232	9
駒井ハルテク	258	7
高田機工	211	5
日東精工	350	7
三洋工業	194	5
岡部	1025	30
中国工業	757	38
ネツレン	755	23
東京製綱	161	4
サンコール	644	14
モリテック	320	3
ニッパツ	932	28
中央発條	303	7
三和HD	701	25
文化シャタ	878	33
東洋シャタ	680	16
三井金船	227	7
川崎重工業	414	12
名村造船所	968	42
サノヤスHD	213	5
トヨタ	6034	103
日野自動車	1478	40
ダイハツ	1566	29
日産自動車	950.7	15.6
いすゞ	1322.5	17
三菱自動車	1160	34
ホンダ	3412	96.5
スズキ	3301.5	154
富士重工	3305	146
マツダ	2352	86
日立	777.2	22.8
東芝	442.7	7.9
三菱電機	1311	47
富士電機	444	13
パナソニック	1200.5	27
シャープ	272	4
富士通ゼネ	1208	60
ソニー	1909	62
三協立山	1895	51
LIXILG	2210	55
アドバネクス	156	7
GSユアサ	524	10
古河電池	935	18
JXHD	457.2	4.6
三井金属	264	▼7
東邦亜鉛	345	8
三菱マテ	317	5
住友金属鉱山	1435	50.5
DOWA	861	30
古河機械金属	203	7
Sサイエンス	48	2
大阪チタ	2068	76
東邦チタ	627	17
日軽金HD	147	4
UACJ	384	18
大紀アルミ	298	7
古河電工	188	7
住友電工	1457.5	41.5
フジクラ	475	30
昭電線HD	100	3
東京特殊電線	1710	22
タツタ電線	588	33
沖電線	284	13
SUMCO	1222	64
カナレ電気	1668	31
平河ヒューテ	1015	23
リョービ	293	11
アーレスティ	690	36
アサヒHD	1769	49
日鉄鉱業	400	12
三井松島	129	3
日本コークス	104	2
東海カーボン	271	7
日本カーボン	177	3
品川リフラ	266	17
黒崎播磨	232	7
ヨータイ	374	10
イソライト	191	5
昭和電工	134	3
ヤマシナ	128	4
エアウォータ	1647	60
パーカライ	2328	115
チタン工業	232	3
戸田工業	345	12
日本触媒	1205	68
タキロン	526	13
三菱商事	2020	37
三井物産	1566.5	29
住友商事	1099	12.5
伊藤忠商事	1228.5	30.5
丸紅	665.6	13.4
兼松	160	6
双日	156	5
豊田通商	2415	34
佐藤商事	657	19
神鋼商事	257	9
阪和興業	367	7
日鉄住金物産	384	17
小野建	1086	20
橋本総業	2285	▼97
コンドテック	700	24
フルサト工業	1590	69
岩谷産業	704	15
小林産業	280	9
ラサ商事	507	9
アルコニックス	1368	56
三洋貿易	1307	36
松田産業	1169	29
白銅	1006	16
MESCO	765	1
名証1部		
岡谷鋼機	6940	
中部鋼鈑	526	0
名証2部		
中央可鍛工業	372	
CKサンエツ	1165	10
MIEコーポ		
カネソウ		
知多鋼業		
中日本鋳工	68	2
カノークス		
JASDAQ		
東京鋼鉄	408	▼5
朝日工業	1052	▼28
東北特鋼	1309	19
新報国製鉄	748	22
バウダーテック	346	3
ニッ星	225	0
アサカ理研	462	▼8
FCM	2136	7
サンコーテクノ	2629	0
特殊電極	237	4
元旦ビューティ	322	
共和工業所		
クリエイト		
大阪工機	1083	2
初穂商事		
清和中央HD		
UEX	319	▼5
アイ・テック	995	5
フルヤ金属	2654	61
NSU内航		
福Q-Board		
日創プロニティ	852	150
山九	527	16
丸運	238	4
ユナイテド海	235	6
第一中央汽船	67	2
上組	960	28
NSSOL	3130	75
タケエイ	1014	29
カナモト	3945	90
東証2部		
北越メタル	277	▼12
川金HD	268	▼2
高砂鉄工	89	1
日本鋳造	149	3
滝上工業	465	2
川岸工業	559	3
那須電機鉄工	387	7
宮入バルブ	111	4
日本パワー	168	
アマテイ	99	▼1
三精テクノ	56	1
ロブテックス	187	▼3
トーアミ	571	10
日立機材	1266	3
丸藤シート	395	▼1
テクノアソシエ	1019	9
ジオスター	731	▼4
SECカーボン	294	1
神鋼環境	686	20
日鋼バルブ	315	▼3
内海造船	169	0
小池酸素工業	269	1
技研製作所	2417	80
フジオーゼ	462	11
JFEシステム	1012	▼4
SRGタカミヤ	1419	28
高田工業所	680	11
エンビプロHD	584	▼2
中外鉱業	29	1
日本精鉱	308	▼1
日本伸銅	119	3
日本タングステン	183	1
東邦金属	120	2
オーナンバ	623	34
日本電線工業	459	13
アルメタックス	393	4
アルインコ	1218	12
不二サッシ	501	3
クロタニコーポ	501	▼3
泉州電業	1795	8

鉄スクラップ相場

2014年10月22日 調べ、◉は上げ▼は下げ（いずれも本体価格のみ）
問屋ヤード持ち込み価格（現金、1㌧、円）
※は引き取り条件、地域により再生加工料を取るケース（逆有償）。
―印は商いなし。

	東京	大阪	名古屋	広島	北九州	東北	札幌
可鍛配合材							
キューポラ用	33,800	33,400	32,900	28,500	―	29,800	―
一般用	30,800	30,400	29,900	25,500	26,800	26,800	―
H S	23,000	22,000	20,500	20,500	23,500	19,000	13,500
H 1	21,300	20,500	19,500	19,500	21,500	17,300	13,000
H 2	19,500	19,500	17,300	19,000	20,900	15,500	11,500
H 3	18,500	18,000	16,300	18,000	19,900	14,500	10,500
ギロッチン材 A	18,000	18,500	16,500	18,000	19,000	14,000	10,500
〃 B	17,500	17,000	16,000	17,000	18,500	13,500	―
〃 C	17,000	15,500	15,500	14,000	17,000	13,000	―
新断プレス	23,600	20,500	21,300	21,500	22,400	18,600	12,500
新断バラ	22,600	19,500	20,200	21,000	21,700	17,600	10,000
鋼ダライ粉	17,200	13,000	10,300	16,000	19,800	11,900	8,000
銑ダライ粉 A	17,700	12,200	10,500	16,500	19,900	12,400	10,000
〃 B	17,200	12,000	9,900	16,000	19,800	11,900	8,000
故銑（上大割）	23,300	20,000	18,900	19,500	22,500	19,300	11,500
〃 （並大割）	21,800	19,000	18,500	18,500	21,000	17,800	10,500
自動車プレス	16,500	16,000	―	11,500	14,900	11,500	8,000
自動車ガラ	16,000	15,000	14,800	11,000	14,700	11,000	8,000
モーターブロック	21,000	20,000	―	19,000	19,300	17,000	12,000
スチール缶（飲料缶）	16,000	14,500	11,500	14,500	18,200	12,000	8,000
ステンレス・スクラップ							
18Cr8Ni新断	80,000	75,000	86,000	75,000	75,000	80,000	88,000
〃 ダライ粉	55,000	45,000	61,000	45,000	45,000	60,000	68,000
18Cr	24,000	27,000	30,000	▼27,000	30,000	25,500	23,000
13Cr	22,000	25,000	28,000	▼25,000	28,000	24,000	21,000
問屋売り需要家持ち込み価格（現金、1㌧、円）							
伸鉄材（上）	23,000	21,500	―	―	―	―	―
〃 （並）	19,500	20,000	―	―	―	―	―

規格	厚さ	幅または高さ×長さ	単重（kg）
H S	6mm以上	500mm以下× 700mm以下	600以下電特
H 1	6mm以上	500mm以下×1,200mm以下	1,000以下特A
H 2	3mm以上6mm以下	500mm以下×1,200mm以下	1,000以下特級
H 3	1mm以上3mm以下	500mm以下×1,200mm以下	1,000以下1級

日本鉄スクラップ総合価格（メーカー炉前平均） 10月22日調べ

※東京、大阪、名古屋地区電炉メーカー購入価格平均（㌧当たり）、産業新聞調べ

H 2	29,800円（ ― ）	275.82㌦（ ▼0.49 ）	
新断バラ	32,100円（ ― ）	297.11㌦（ ▼0.53 ）	

米国鉄スクラップ総合価格 342.50㌦（37,003円）

※No.1ヘビー（トン当たりドル）

東部地区	ピッツバーグ	フィラデルフィア	シカゴ
	349.50	328.50	349.50
西部地区	ロサンゼルス	シアトル	サンフランシスコ
	―	―	―

TTS1㌦＝108.04円で換算

東京 鉄スクラップ商況 大阪

札幌

H形鋼

鉄骨需要鈍く弱含み

H形鋼は200×100で8万5000円と弱含みで推移している。

道内ファブリケーターは各工場とも年内の仕事は確保している状況だ。大手ファブを中心に来春まで仕事を確保した所も見受けられる。だが、ファブ向けH形鋼の多くはメーカー直送での対応になっているため、倉庫からの荷動きにはあまりつながっていない。

本年度は秋にしては鉄骨需要が今一つ伸びなかった。流通業者はメーカーの製品価格据え置きを市況維持の大きな理由としていたため、東京製鉄の値下げ発表により対応の見直しを余儀なくされている。降雪期を迎えると鉄骨需要が減少するのは確実で、流通業者は価格面で弱気になっている状況だ。

名古屋

鉄スクラップ

引き続き弱基調

鉄スクラップは続落した。

問屋持ち込み価格はH2でトン当たり1万7300円前後。

地区電炉炉前購入価格は、指標品でトン3万―3万50円前後。新断で同3万3000円前後。

地区内では、21日から一部電炉メーカーが一段の建値、購入価格の引き下げを実施。弱基調が継続している。20日には東京製鉄が11月契約分の店売り向け鋼材販売価格を引き下げたことで市中の荷動きは活発。メーカー入荷も高い水準となっている。輸出業者の対応は、既契約分の船積みに向けたスポット集荷にとどまっており、在庫拡大を嫌い、総じて炉前価格を下回る価格設定を保っている状況だ。

福岡

鉄スクラップ

東鉄引下げ一段安

鉄スクラップは東京製鉄九州工場が17日入荷分から購入価格を引き下げたため市況が一段下落。相場はヤード持ち込み価格（H2）が2万2900円、地区電炉メーカーの購入価格（H2）が3万円どころ。

需要は電炉が在庫を多く抱えているため、購買意欲はそれほど高くない。高炉は原料価格の下落から相対的に割高となる鉄スクラップの市中購入量を減らす傾向にある。

一方、供給面では需要の落ち込みに加えて市況下落を受けてヤードが出荷を見合わせる動きが加速。

発生が少ないという状況は続いているものの、鉄鋼製品価格や輸出価格の下落などから、さらなる市況下落を懸念する声が聞かれる。目先、弱含みか。

広島

H形鋼

荷足引続き精彩欠く

H形鋼は横ばい。相場はトン当たり8万3000―8万4000円（ベースサイズ）どころ。

東京製鉄は11月契約分の販売価格を全品種トン3000円引き下げを発表した。流通では9月下旬から鉄スクラップ価格が急落していたため、東鉄の値下げを予想していたが、製品市況が停滞する中、先行きを懸念する声もある。

足元では建築向け需要はあるものの、人手不足などの影響で依然、荷動きは盛り上がりを欠いた状態が続いている。一定の荷動きはあるため流通では価格維持に努めながら、需要家の動向を見極めたい意向だが、市況の軟化は避けられないとみられる。

目先は弱含み推移が見込まれる。

依然先安含み

鉄スクラップは弱含み。ヤード持ち込み価格はH2がトン1万9500円、H1が同2万1300円、HSが同2万3000円どころ。

関東地区鉄鋼メーカーの鉄スクラップ炉前購入価格（H2ベース）はトン2万9500―3万3500円前後（22日時点）。

地区内相場は依然として先安含みのまま推移している。市中ヤードは在庫積み増しを避けて出荷を急ぐ傾向にある。関東湾岸のシッパー筋なども輸出船積みが少ないことと輸出市況の底が見えにくいことで集荷量は減っている。

地区内の鉄スクラップ消費量は伸び悩みながら極端な落ち込みとはなっていないが、東鉄の製品販価引き下げなど製品市況にも弱気材料があって、メーカーの鉄スクラップ原料の購入姿勢にも慎重姿勢が想定される。

入荷好調で続落も

鉄スクラップは弱基調で推移している。ヤード持ち込み価格（H2）はトン2万9000―3万円前後、一部同3万5000円前後。

昨年1月以来の安値となった地区内市況だが、「東アジア向け新規入荷増に直結している」（同）との声も聞かれる。

さらに市中では「東京製鉄・岡山工場も入荷好調なため、東鉄が再び鉄スクラップ買値を引き下げるなど、市況が続落する可能性もある（ヤード筋）と見る向きもある。